

授業科目	理学療法評価学Ⅱ				
担当者	今井公一（実務経験者）、相原一貴（実務経験者）			（オムニバス）	
実務経験者の概要	今井公一（総合などの医療施設、介護保険施設などで診療及び臨床指導経験あり）				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

理学療法の対象者をどのような視点で理解すればよいのか、また対象者の生活像の理解と問題分析のためにどのような具体的な方法があるのか、総論的な内容を学習した後、評価法の各論を学びます。各論の個々の内容は目標を参照。様々な領域（実務経験）を踏まえた視点や技術の必要性について講義をします。

■ 到達目標

1. 形態測定、関節可動域測定、筋力検査法について説明できる 2. 神経機能（意識・知能・高次脳機能、運動麻痺、協調障害、感覚障害、反射・反応、筋緊張）の評価について説明できる 3. 内部障害の評価の概要について説明できる

■ 授業計画

- 第1回 神経系障害の評価 神経系の検査（1）
- 第2回 神経系障害の評価 神経系の検査（2）
- 第3回 呼吸・循環・代謝障害の評価（1）
- 第4回 呼吸・循環・代謝障害の評価（2）
- 第5回 呼吸・循環・代謝障害の評価（3）
- 第6回 筋骨格系の評価 形態測定
- 第7回 筋骨格系の評価 ROM測定（1）
- 第8回 筋骨格系の評価 ROM測定（2）
- 第9回 筋骨格系の評価 筋力検査法（1）
- 第10回 筋骨格系の評価 筋力検査法（2）
- 第11回 筋骨格系の評価 筋力検査法（3）
- 第12回 筋骨格系の評価 筋力検査法（4）
- 第13回 運動器疾患の評価の実際（1）
- 第14回 運動器疾患の評価の実際（2）
- 第15回 総括（臨床思考の実際）

■ 評価方法

提出物10% 単元毎筆記試験30% 科目試験（筆記試験）60% なお、小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

配布資料は時系列に整理しファイルしておいて下さい。必ず授業当日に一度は配布資料やテキストを見直し復習して下さい。単元毎の試験及び到達度試験を行います。

■ 教科書

書名：理学療法評価学Ⅱ

著者名：石川 朗

出版社：中山書店

書名：リハビリテーション評価マニュアル

著者名：正門由久

出版社：医歯薬出版

書名：新・徒手筋力検査法

著者名：津山直一他訳

出版社：協同医書出版

■ 参考図書

書名：運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢／下肢・体幹

著者名：林 典雄

出版社：メジカルビュー社

書名：ROMナビ (DVD)

著者名：青木主税 他

出版社：Round Flat

■ 留意事項

授業中の指示については必ず従ってください

■ 講義受講にあたって

1年生で学習した内容に加えて対象となる領域が増えていきますが、基本的には1年生の学習内容の延長です。理解が難しいときは1年生の内容を復習してみてください。